

いいき美浦に人咲く 夢咲く 福祉咲く



美浦村

2019.7.1

Vol.

82

しゃきようだより

輪投げが結ぶ世代の和 ～三世代輪投げ大会～



どうしたら防げる？

美浦村高齢者の交通安全を考える

- 平成30年度 美浦村社会福祉協議会 事業報告・決算報告
- 自立支援センターホープ便り ○大谷小学校で福祉体験教室
- 3世代輪投げ大会開催 ○みほちゃん広場ボランティア募集 ○人に歴史あり 他

美浦村しゃきようだよりの発行は「赤い羽根共同募金」の配分金事業で行われています。



データで見る茨城の高齢者事故

特集

どうしたら防げる？ 美浦村高齢者の交通安全を考える

美浦村における高齢者の交通事故

種別	年	H27	H28	H29
発生件数		8	12	7
死者数		0	0	1
負傷者数		4	7	1

高齢ドライバー事故内容ワースト3

類型	件数
出会い頭	655
停車中に追突	508
右折車と直進車	140

平成 29 年高齢者交通事故発生状況

種別	地区	美浦村	稲敷市	阿見町
発生件数		7	69	72
死者数		1	3	2
負傷者数		1	40	35

高齢ドライバー事故原因ワースト3

原因	件数
安全確認の不足	768
前方不注意	546
運転操作ミス	128

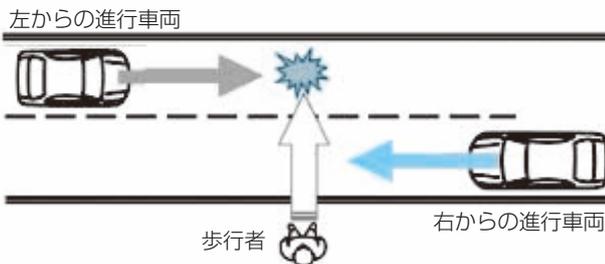
データは茨城県交通白書平成 29 年版より

村内での事故は近隣よりは少なくなっていますが、だからこそ村外に出るときは注意が必要と言えるでしょう。県内では出会い頭の衝突事故が多く、交差点または駐車場から車道に出る際には十分な安全確認が必要です。

ブレーキとアクセルを間違える運転操作ミスを防ぐためには、被害軽減（自動）ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置等を搭載した車（安全運転サポート車）の導入や、カー用品店で車輻に急発進防止装置をつける（費用は数万円と比較的安価）などの対策も考えてみましょう。

歩行者は夜間・左からの車に注意

横断中の事故のイメージ



横断中の事故は昼より夜、右から来る車より左から来る車との接触が多くなっています。

主な理由として、高齢者は道路を渡りきるのに時間がかかることや、黒や紺、茶色など地味な色の服装が多いため、ドライバーから目立ちにくいこと、夜は車のライトがロービーム時、右より左を照らす構造になっているため、ドライバーが右側の歩行者に気が付きにくいということがあります。

ドライバーは対向車がいなければハイビーム、歩行者は白系の明るい服装や反射材を身に付けるなどして、お互いに交通安全に努めていきましょう。

車両進行方向による横断中死亡事故件数

		左から	右から
高齢者以外	昼間	4	5
	夜間	28	16
高齢者	昼間	26	26
	夜間	180	40

※平成 29 年交通安全白書より



免許は返納する？しない？村民の声

しない 生活のため必要



80代男性。運転歴50年超。
子・孫と同居の7人家族で
うち5人が免許所有。

妻はバイクの免許を返納しましたが、私は毎日車に乗っています。妻を連れてスーパーへ買い物や通院、老人クラブ活動や孫の送り迎えなど、月に1,500kmくらい走っています。そのため車がないと生活できません。家族からは免許返納についての話が出たことはありませんが、おそらく言っても無駄だと思われるのでしょう。

安全運転には人一倍気をつけています。運転は日中のみで、夜間は運転しません。交通ルールを守り、法定速度は超えません。安全運転の講習会には積極的に参加しています。

高齢ドライバーの事故のニュースを目にする度、人ごとではなく明日は我が身と思い、毎日気を引き締めてハンドルを握っています。

した 不便より安全



80代女性。運転免許なし。
90代の夫と2人暮らし。
夫の免許更新せず。

きっかけは、主人の免許が失効していたことでした。期限もだいぶ過ぎており「もう一度教習所に通う必要がある」と言われ、87歳という年齢を考え、そのまま更新しないことに。本人は不満そうでしたが、ここだけの話、主人は昭和一ケタ生まれで頑固な性格だったので、返納のきっかけが出来てよかったと思っています。食材は組合の宅配サービスを主に使っていて、通院などの外出時はやまゆりタクシーや民間のタクシー会社を使っています。美浦村は車のない家庭には少し不便なところですが、自然環境は良いので、安全なくらしのためには仕方ないですね。

美浦村の運転免許自主返納支援事業

・美浦村デマンド（やまゆり）タクシー

- (1) 登録料 2,000 円が無料
- (2) 利用券 9,000 円分を支給

条件がありますので、詳細は村生活環境課
電話 885-0340（代）へお問い合わせ下さい

申請者数一覧

年 度	H28	H29	H30	R1 ~
申請者	12	21	18	3

※申請した人数であり、返納した人数ではありません

返納することのリスクを考えて決断を 村老連会長に訊く

交通事故を起こすリスクだけ考えれば、運転免許証を返納するのが最善な方法とも思えます。しかし、美浦村で高齢者から車という“足”を奪うことは、“自由”と“生きがい”を奪うおそれすらあり、返納は人生の転機となるだけの大きな決断になります。家族が代わりに送迎すれば負担が増え、タクシーを使えば金銭的負担が増えます。ネットスーパーやネット通販での買い物は、インターネットが苦手な大部分の高齢者にはまだ使い勝手がよいとは言えません。さらに、家に閉じこもるようになれば、足腰が弱り、認知症になる可能性という介護リスクすら考えられます。



まだ元気と思われるうちから車の安全対策を行い、ネットショッピングにも挑戦し、他の交通手段も使ってみるなど、車のない暮らしの準備期間を設け、そう遠くない未来に向けて、我々高齢者だけでなく家族や周囲の人々と一緒に今から考えておくのがよいのではないのでしょうか。（村老人クラブ連合会会長 萩田正義氏）



平成30年度社会福祉協議会事業報告

◆ボランティアの育成・活動支援

○ボランティア活動基盤づくり

ボランティアをしたい人と頼みたい人を上手に結びつけるため、ボランティアセンターで、地域のボランティア活動の支援・育成を行いました。
(登録48団体582人、個人22人)

○みほちゃん広場の開催

児童生徒育成の一環としてボランティアの協力のもと、夏休みに学習、食事、遊びの場を提供し、子育て支援を行いました。(延べ参加人数181名)

◆児童・高齢者・障害者福祉

○歳末たすけあい支援

支援を必要とされる方々が温かな年末年始を迎えることを目的として、商工会発行のクーポン券やシルバー人材センター利用券の贈呈(計266世帯)を行いました。

○サンタ訪問

支援を必要とされる母子・父子・障害者世帯に対し、サンタクロースが自宅を訪問し、お菓子をプレゼントしました。(35人)

○小学校入学祝品の贈呈

表面は障害者マーク、裏面は各校歌をデザインした下敷きを、村内小学校及び美浦特別支援学校初等部に入学者児童123人に贈呈しました。

○自立支援センター ホープ

就労が困難な障害者が、地域社会で自立ができることを目的として、内職や生活訓練を中心とした通所事業を実施しました。(利用者延べ5,050人)

○介護教室等

自宅で介護をしている人等を対象とした家族介護教室を開催。また、村の依頼を受け「認知症サポーター」養成講座の講師を務めました。



ボランティアによる子育て支援

○福祉用具・車両貸出

高齢者や障害者等の生活の質が向上することを狙いとして、車イスおよび、車イスが乗れる福祉車両を計37回貸し出しました。

○シルリハ体操指導士会運営支援

村内における高齢者の介護予防推進を目的にしたシルリハバリアビリ体操指導士会の事務局として、指導士の活動を支援しました。

○高齢者祝賀

永年にわたり社会に貢献された高齢者の長寿等を祝福することで、福祉の増進を図ることを目的として、敬老会(村と共催)、村内最高齢者祝、喜寿祝、金婚祝を実施しました。

○見守り配食サービス

ひとり暮らし高齢者の安否確認と健康増進を目的として、民生委員やボランティア団体等のご協力を得て、60人へ月2回夕食用の弁当等を延べ1,049食配達しました。

○おもちゃ図書館

障害の有無にかかわらず、子どもがおもちゃをとおして遊び育つ場を提供するため、みほふれ愛ブラザでおもちゃ図書館を月2回開催しました。
(幼児471名利用)

○日常生活自立支援事業

認知症の高齢者、知的・精神障害者等で判断能力が十分でない方の福祉サービスの利用援助や、日常の金銭管理等を行いました。(延べ714回活動)

○地域見守り活動

地域の安心・安全の確保を目的に、村老人クラブ連合会と連携し「みほ見守り隊・老連」を発足し、23地区で延べ3,003人が、下校児童・ひとり暮らし高齢者の見守り活動を行いました。

◆子育て支援

○いきいき子育て支援金

子どもを安心して生み育てることのできる環境づくりを支援することで地域の活力が生まれるよう、村内在住で1〜3歳の第3子以上を養育する家庭に対し、支援金を27人に支給しました。



敬老会でボランティアがお手伝い



○ひとり親家庭援護

経済的負担を軽減し、児童・生徒の健全な育成のため、小学校・中学校に入学するひとり親家庭へ入学祝金を贈呈しました。

◆地域の福祉力向上

○社会参加推進

地域サロン活動を支援（6団体に助成）することで、介護予防や閉じこもりの防止を行いました。また、映画上映会を開催しました。

○福祉交流活動

行事を通して世代間交流を深めることを目的として、親・子・孫が輪投げを通して交流する「三世代ふれあい輪投げ大会」（136人）、レクリエーションを通じて高齢者と幼児が交流する「保育所児と高齢者のふれあい運動会」（209人）を開催しました。

○広報事業

福祉情報の提供と福祉意識の啓発を目的として、社協だよりの発行（年4回）、ホームページの運営、マスコミイベントに登場させ、PR活動を行いました。

○福祉教育活動

福祉への理解と関心を深め、思いやりの心を育成するため、木原/大谷小学校で車いす教室や高齢者疑似体験教室を行うと共に、3小学校へ福祉教育の推進助成金を支給しました。



小学校で福祉体験教室

○その他の関連事業

地域福祉団体の活動支援を行いました（5団体）

◆心配ごと・法律相談

村民の悩み事・心配ごとを解決することを目的に、心配ごと相談を月2回、弁護士による法律相談を月1回開催しました。（相談件数55件）

◆善意銀行・やまゆり基金運営

○寄付金の受入

善意を持って寄せられた金品を受け付けており、30年度は、1,400,638円の寄付金と32件の寄付品をお預かりしました。また、村内の商店・施設に依頼して、募金箱を12ヶ所に設置しております。

◆低所得者等福祉対策

○生活福祉資金貸付・小口資金貸付

低所得世帯や高齢者、障害者の自立や生活の安定を目的として、民生委員等の関係機関・団体の協力のもとに資金の貸付事業を行いました。

○フードバンク

村民の皆様やフードバンク茨城より提供を受けた食材で、低所得者を対象に一時的な食糧支援を行いました。

◆介護保険事業

○通所介護

美浦村デイサービスセンターにおいて送迎を行い、食事や入浴、排泄介助、機能訓練（リハビリや口腔ケア）、レクリエーションなどのサービスを提供しました。（利用者延べ6,182人）

また、体操や運動機器を使用して筋力の維持・向上を図ることを目的としたやまゆり運動教室を開催しました（村受託事業）。

○訪問介護

ご自宅へホームヘルパーを派遣して、家事援助や身体介護を提供しました。（利用者延べ1,860人）

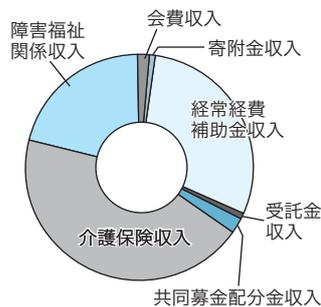
○居宅介護支援

介護保険サービスを利用される方の「介護サービス計画」の作成、相談、連絡調整を行いました。（利用者延べ1,407人）

平成30年度決算報告

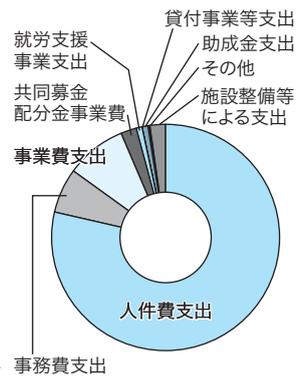
収入の部

	金額(円)
会費収入	2,942,400
寄附金収入	1,430,638
経常経費補助金収入	46,711,000
受託金収入	1,120,200
共同募金配分金収入	3,460,676
介護保険収入	70,301,222
障害福祉関係収入	33,055,202
施設整備等による収入	150,000
財務活動等による収入	8,403,240
その他	595,947
前期末支払資金残高	67,892,232
収入計	236,062,757



支出の部

	金額(円)
人件費支出	130,401,421
事務費支出	10,520,610
事業費支出	14,502,138
共同募金配分金事業費	3,520,204
就労支援事業支出	1,548,988
貸付事業等支出	125,000
助成金支出	1,315,849
その他	261,340
施設整備等による支出	3,400,640
財務活動等による支出	7,165,632
当期末支払資金残高	63,300,935
支出計	236,062,757





自分たちにできることを考えてみよう 大谷小で高齢者／障害者疑似体験

6月上旬、大谷小学校5・6年生を対象に社協の職員が講師となり、高齢者／視覚障害者疑似体験教室を2週に渡って行いました。

体験を通じて、小学生が「今の自分」と身体が不自由な人たちとの違いを感じることで、相手に対する思いやりの心や、困っている人に対して何が出来るか考える福祉の精神が芽生えてくれれば嬉しく思います。



自立支援センターホープ便り

イベントも立派な自立訓練 笑顔あふれる バーベキュー大会

ホープについて
詳しく知りたい人は



自立支援センターホープでは、利用者のお楽しみとしてイベントを毎月実施しています。

5月は村長を招待し、センターの庭でバーベキューを行いました。普段の作業訓練とは違う雰囲気を利用者はウキウキ。女子チームは食材を切る係、おにぎりをにぎる係、男子チームは会場準備係や炭火を焚く係と、みんなで協力し合い取り組むことができました。焼肉に焼きそば、美浦のパプリカやおにぎりを平らげ、「美味しかった」「またやりたい」とイベントは大成功。

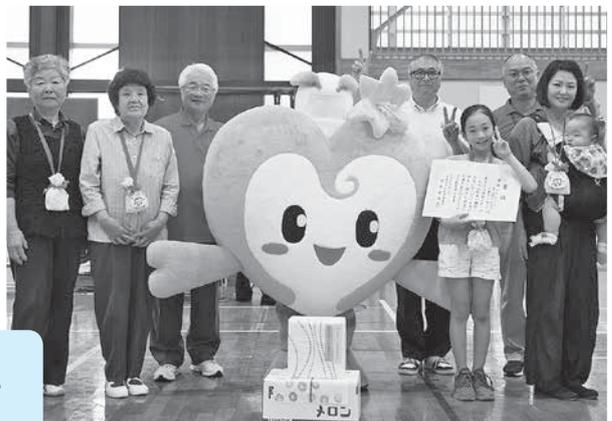
役割分担をすることで、協調性を養うこともできました。

布佐Dチームが連覇 三世代輪投げ大会

世代間の交流を目的とした三世代輪投げ大会（協力：村老人輪投げクラブ／賞品協力：JA水郷つくば）が6月8日、木原の農トレで行われ、全32チームが熱戦を繰り広げました。小学生、保護者、高齢者が地区ごとにチームを組み、和気あいあいとした雰囲気の中、仲間の一投に一喜一憂しながら、梅雨空の下、輪投げ競技を楽しみました。

優勝 布佐シニアクラブDチーム

準優勝：ハマDチーム 第3位：ハマCチーム



みほちゃん広場ボランティア募集



日程：

- 7月29日(月)
- 8月1日(木)
- 8月8日(木)
- 8月16日(金)
- 8月22日(木)
- 午前9時30分～
- 午後3時30分

詳細はこちら



このうち1日でもお手伝いしていただける方は、ボランティアセンターへご連絡ください。

大切にします！あなたの善意

<平成31年4月1日～令和元年5月31日寄付分>

◇善意銀行

- 美保会・峠カラオケ会 様…………… 17,818 円
- 美浦トレーニングセンター商業協同組合 様… 10,000 円
- 匿名 1件…………… 26,000 円

◇物品寄贈

- 匿名 2件…………… 車イス・ぬいぐるみ

◇使用済み切手・プリペイドカード

- 中野 久永 様
- 武田 優 様



美浦村社会福祉協議会では、寄付金の他、使用済み切手や使用済みテレフォンカード、書き損じ葉書を受け付けています
※使用済み切手を収集の場合、切手のまわりの余白を5ミリ～1センチ位残して切り取り、日本切手と外国切手に分けてください。

車いす／福祉車両貸出

高齢者や障害者等の外出支援として、車いすや福祉車両（車いす用リフト付車両）を貸出します。

◇福祉車両利用料金（車いすは無料）

保険料（1日500円）＋走行距離（1km×14円）

【お問い合わせ】TEL：885-0038

美浦村おもちゃ図書館

世界中で長く愛されている良質のおもちゃたちが、あなたのお子さんに遊んでもらうのを待っています。

- ◇対象 美浦村にお住まいの障害児／未就学児
- ◇開催日 毎月第2／第4土曜日
午前10時～11時30分
- ◇場所 みほふれ愛プラザ
- ◇内容 おもちゃでの遊び
おもちゃの貸出

いきいき子育て支援金

子供を安心して産み育てる事の出来る環境作りのため支援金を支給しています。

- ◇対象 第3子以降の子を養育している親権者1名
- ◇条件 美浦村に在住1年以上あることなど
- ◇金額 1歳児／2歳児 年2万円
3歳児 年1万円
- ◇注意点 自己申告になります。申請期限があります。
詳しくは「いきいき子育て支援金」で **検索**

社協の相談事業《無料・要予約》

会場：老人福祉センター ◎予約受付 TEL：885-7080

心配ごと相談所

相談日：第1・3月曜日

（祝祭日の場合は翌営業日。※年末年始を除く）

時間：午後1時～3時

弁護士による法律相談

7月 相談日：7月24日(水) 予約開始：7月1日(月)

8月 相談日：8月28日(水) 予約開始：8月1日(木)

9月 相談日：9月25日(水) 予約開始：9月2日(月)

時間：午後1時30分～午後4時

社会福祉法人

美浦村社会福祉協議会・
美浦村デイサービスセンター
〒300-0424

茨城県稲敷郡美浦村受領 1546-1

TEL：029-885-0038

（社会福祉協議会事務局）

：029-885-8885

（美浦村デイサービスセンター）

FAX：029-840-4552

ホームページ：

<http://www.mihoshakyo.jp>

美浦村老人福祉センター・

ボランティアセンター・
美浦村自立支援センター「ホープ」
〒300-0421

茨城県稲敷郡美浦村木原 150-2

TEL：029-885-7080

FAX：029-885-1042

（福祉センター・
ボランティアセンター）

TEL：029-885-6010

FAX：029-886-3633

（自立支援センターホープ）

これらの事業は赤い羽根共同募金の配分金、社協会費を財源として行われています。



第1回

「人に歴史あり」

人生の先輩の言葉に耳を傾ける

いしい
贅井 二郎さん (74)

|| 宮地 ||



―子どもの頃から美浦で育った

宮地に家があり、大谷小から本原中、江戸崎高校を卒業後、昭和38年に日本理研ゴム(現オカモト株)に入社しました。工場は神奈川県座間市にあり、主にビニールハウスに使うフィルムを製造していました。24時間稼働の3交代制、市内の4畳半の社員寮に4人で住んでいました。

―当時の生活は

初任給は約1万円。高度経済成長期のまっただ中で、野っ原だった土地に工場や住宅が瞬く間に建設され、あつという間に人が増えていったことを覚えています。毎年冬になると東北からの労働者が春先まで出稼ぎに来ていて、ベテランの彼らに仕事を教わることもありました。

―仕事の思い出は

工場では品質管理が厳しく、休日明けの月曜の朝は、部長が始業1時間前に出勤して場内を周り、ミスを見つけては担当者を怒鳴りつけていました。私が当番の時は、前日に出勤してミスがないか確認し、翌日も念のため、部長より早く出勤していました。そのため、部長に叱られたことは一度もなく、代わりに「二郎君の日は調子が狂う」とよくボヤかれました(笑)。

―会社員生活でのモットーとは

「人を育てる」ことを大切にしてきました。私自身、工場長に厳しく育てられました。その分、よく面倒を見ていただき、後に本社取締役になって異動してからも、私のことをよく気にかけてくれました。そういつたこともあり、私も部下の育成に力を注ぎました。コミュニケーションを密にし、互いの信頼関係を築くことを重要視しました。叱った後のフォローを大切にし、良いことには指導に熱が入り、こつびどく叱ったこともありましたが、そういう部下の方が年賀状をくれたりしましたので、叱るも褒めるも、愛情があれば分かってくれると思います。

―民生委員になつたきっかけは

自分が民生委員になるなんて、全く思っても見ませんし、やる気もありませんでした。当時の事務局長と役場の福祉課長に頼まれて、仕方なく引き受けたのがきっかけです(笑)。

―活動して感じたことは

地域で支援が必要な人に対して身近な相談相手となり、支援を必要とする住民と行政や専門機関をつなぐ

パイプ役を務めるのが民生委員活動の基本ですが、子育ての相談を受けたり、見守りが必要な高齢者に社協のお弁当を配達したり、実際の活動の幅が広く、奥が深い仕事だと感じました。ひとり暮らしの高齢者を訪問すると、ずっと話し相手を待っていて歓迎してくれる人もいれば、訪問を拒む人もいて、個別に対応を求められる場面が多いです。教科書通りに行かないところが難しいですが、だからこそやりがいもあると感じています。

―活動の苦労や喜びは

幸いにも「つらい」と感じたことはありません。民生委員は研修が多く、福祉について勉強する機会があることが嬉しいですね。活動記録をつけるためパソコンも始め、ワープロソフトや表計算ソフトを使えるようになりました。まさか60歳を過ぎて勉強するとは思わなかったです。今は「学ぶ喜び」を感じています。

―11月末で定年を迎えます

6年間の活動はあつという間でしたが、ゆつくりできない性格なので、今後は違ったかたちで地域福祉に関わっていききたいですね。



贅井 二郎さん

昭和19年生まれ。江戸崎高等学校普通科卒業後、昭和38年日本理研ゴム株入社。茨城工場物流統括部長を務め、平成13年退職。
平成22年宮地地区区長。平成25年から美浦村民生委員児童委員就任。平成29年から同協議会の会長を務める。現美浦村社会福祉協議会副会長。
趣味はアイロン掛け。